

## 平成 23 年度臨時（第 3 回）理事会議事録

日 時： 平成 23 年 11 月 19 日（土） 11：00～15：00

場 所： 東京夢の島マリーナ 2 階会議室

出席理事：（敬称略、順不同）

河野博文、秋山雄治（委任：河野博文）、西岡一正、植松眞、森山雄一、前田彰一、児玉萬平、鈴木修（委任：河野博文）、斎藤渉、鈴木國央、小山泰彦、松原宏之、山田敏雄、山田州子、中澤信夫、庄司一夫、木立正博（委任：児玉萬平）、平井昭光（委任：河野博文）、柴沼克己、坂谷定生、山下記誉、守本孝造、山本嘉一、中村公俊、斉藤修（委任：前田彰一）、吉留容子、剝岩政次

以上 27 名、内委任状 5 名

出席監事：浪川宏、中村隆夫

以上 2 名

欠席監事：栗原博

以上 1 名

オブザーバー：棚橋善克ドーピング裁定委員長、斉藤威指導者委員長、大坪明外洋安全委員長、大村雅一ルール副委員長

### 議事の経過及び結果

（定足数の確認）

理事 27 名、出席者 27 名（内、委任状 5 名）により、寄附行為第 29 条に基づく定足数を充足しており、本理事会は成立した。

（議長による開会宣言）

寄附行為第 28 条に基づいて、河野博文会長が議長となり、平成 23 年度臨時（第 3 回）理事会の開会を宣言し、議事進行を前田彰一専務理事に委任した。

（議事録署名人）

本理事会の議事録署名人として、議長指名により、中澤信夫、坂谷定生の両理事が任命された。

河野会長から、公益財団移行に伴う連盟役員選任方法、東京五輪招致活動、山口国体における不祥事の対応、また、その他提出された重要案件につき、審議をお願いしたいとの挨拶があった。

### < 審議事項 >

#### 1) 公益法人移行 役員選出

庄司理事から資料に基づき、公益法人移行に伴う役員選出（理事・監事候補者推薦手続

規程、理事・監事候補者推薦手続規則、全国代表者会議運営ガイドンス及び代表者会議の推薦投票権)について提案があった。

「理事・監事候補者推薦手続規程(理事会内規)」は、理事及び監事の選任に関する理事会より評議員会への理事及び監事候補者の推薦手続についての規程である。理事推薦候補者は、会長による推薦候補者、水域による推薦候補者、全国加盟団体代表者会議の推薦候補者とするを明記した。また、監事候補者の推薦に関する文言はガバナンスの問題から一部削除する。

「理事・監事候補者推薦手続規則(理事会内規)」は、役員候補者資格・役員の定年・役員の任期制限・役員候補者の推薦数・役員候補者の推薦手続・全国加盟団体代表者会議による理事候補者の推薦手続・役員候補者の推薦手続スケジュールの概要を明記した。

「全国代表者会議運営ガイドンス及び代表者会議の推薦投票権」は、事業計画・予算等について役員ならびに各委員会との意見交換ならびに理事候補の推薦リストを作成することを会議設置目的とし、会議構成メンバーは各加盟団体から代表者として推薦された者(評議員可)とするを明記した。推薦投票権の投票母体数は加盟・特別加盟団体 126 団体で、1~3 投票権数で投票総数 200 票(平均投票数 1.58)とするケース 1 で執行する。第 1 回目を平成 24 年 3 月 10 日に開催するとの発言があった。

柴沼理事から、手続規則の役員候補者資格「一般メンバー」及び役員の定年「就任時に満 20 歳以上」の表記は、学生を排除しているように思えるとの質問があった。

児玉常務理事から、決して学生を排除するものではなく、被選挙権者になるには学生から一般メンバーに変更することで問題ないとの発言があった。

前田専務理事から、選挙管理委員会と相談して 1 月理事会へ提案するとの発言があった。

承認された。

## <報告事項>

### 1) 公益法人移行申請プロジェクト

庄司理事から資料に基づき、公益法人移行申請を平成23年10月28日に電子申請したとの報告があった。12月中旬に内閣府からコメントがあるとの発言があった。

### 2) ユース制式艇種検討プロジェクト実行委員会

西岡副会長から資料に基づき、制式艇種統一及び導入のための実行委員会から報告があった。

ジュニア・ユース育成強化委員会のメンバーを中心とした制式艇種委員会の提言をも

とに、実行委員会設立が承認された。委員会検討内容は、長期ビジョンの取り纏め、統一と実現に向けての計画策定と実施、制式艇種の情報提供と試乗会等の実施、実施資金計画と資金の調達とした。実行委員会で検討した結果、艇種を統一し、実現するための問題の解決は、経済的援助と指導者の問題に取り組むことが肝要であるとの認識を得た。また、次回委員会開催までにゴールドプランを中心に長期ビジョンをまとめるとの発言があった。

児玉常務理事から、実際に420級を制式艇種にするために必要艇数はとの質問があった。西岡副会長から、当面必要とする艇数は60～80艇を目標としているとの回答があった。柴沼理事から、ISAF ワールド等を日本に誘致することを JSAF と企業・スポンサー等を含めてプロジェクトを考慮できないか、開催することで艇数は集められるとの発言があった。

森山副会長から、420 体験乗船会や見学会などを開催することも必要との発言があった。小山理事から、東京都は 420 級新艇を 6 艇購入した。各水域で 420 級の艇数調査も必要であるとの発言があった。

鈴木（國）理事から、和歌山ではジュニア・ユースに年間 1 万で貸与可能であることを働きかけが必要との発言があった。

### 3) 平成 23 年度定期表彰に係わる受賞候補者推薦

庄司理事から資料に基づき、平成 23 年度定期表彰に係わる受賞候補者推薦依頼について報告があった。平成 23 年度定期表彰を平成 24 年 3 月 11 日評議員会において挙行予定としている。平成 23 年度定期表彰受賞候補者推薦書の提出期日を平成 23 年 12 月 26 日として、各加盟団体へ配布するとの発言があった。

### 4) 420 ビルダ―ISAF への申請手続き

庄司理事から資料に基づき、420 ビルダ―ライセンスについて報告があった。

オクムラボート販売㈱から、420 ビルダ―ライセンス取得につき、ISAF へ申請手続きの依頼があった。国内ビルダ―としての実績や財政状況（債務超過などない）ことを考慮して、また国際委員会の堤委員に助言等をいただき、オクムラボート販売㈱を推薦する。今後は、制式艇種委員会と連携して、420 クラスを普及していくとの発言があった。

### 5) ルール委員会報告

大村ルール副委員長から資料に基づき、ルール委員会報告があった。

「和歌山インターナショナルレガッタ」及び「江ノ島オリンピックウィーク 2011」の 2 大会につき、インターナショナル・ジュリーの選任について、大会主催団体からの要

請に基づき構成した。IJ/IU 候補推薦委員会が IJ 推薦候補者として推薦した田中正昭氏が IJ 認定された。東日本大震災で流失したジャッジ認定書 2 名につき、手数料無料としたとの発言があった。

## 6) レース委員会報告

松原レース委員から資料に基づき、平成 23 年度 JSAF 共同主催・公認・後援について報告があった。2 大会共同主催、2 大会後援、8 大会公認（2 大会調整中）したとの発言があった。

## 7) 国際委員会報告

柴沼理事から資料に基づき、平成 23 年度 ISAF 会議について報告があった。

11 月 4～12 日、プエルトリコ・サンジュアンで開催された ISAF 総会に、植松副会長・大谷たかを氏・小林昇氏・柴沼理事の 4 名が出席した。来年 5 月で RRS 及び ERS2013-2016 の改訂・翻訳作業となる。レーシングルール委員会での ISAF 規定 20（広告規定）一部改正はホームページで掲載する。レースオフィシャルズ委員会での IJ 国内資格者は 7 名（新規：田中氏）である。イベント委員会での 2016 年リオデジャネイロ五輪は、日程及びコストの縮減ならびに目に見える大会として競技内容の見直しが行われる。また、2013 年ブラインドセーリングワールドの日本開催が IFDS（国際障害者セーリング連盟）総会で承認され、JSAF へ強い協力が要請されたとの発言があった。

植松副会長から、オフショア関係において、ORC と RORC による統一レーティングに向けて模索している。欧州を主に ORC 証書は約 7,600 枚、IRC 証書は 10,000 枚発行されている。SR（スペシャルレギュレーション）は、復原力のないフネの安全検査を厳しくする等の発言があった。

## 8) 国体委員会報告

前田専務理事から、第 66 回山口国民体育大会終了について報告があった。詳細は会報誌を参照していただきたい。また、開催中の暴力行為に関して、日体協にお詫びしたとの発言があった。

吉留理事から、福岡県体協へのお詫びしたとの発言があった。

## 9) オリンピック特別委員会報告

山田オリンピック特別委員会委員長から資料に基づき、活動報告があった。

12/4～18 日にオーストラリア・パースで開催される ISAF ワールドでは、各種目参加艇数 75%が決定する。残り 25%は 2012 年種目別世界選手権大会で決定する。本大会に 6 艇種 8 種目 32 名の選手が参加する。2012 年ロンドン五輪は、7 月 28 日～8 月 11 日までウェイマスで開催される。8 艇種 10 種目で行われ、日本は 6 艇種 8 種目に挑戦する。ま

た、オリンピック特別委員会とジュニア・ユース育成強化委員会から「2011年シーズン報告書」を作成し、JSAF強化への協賛各社へ配布したとの発言があった。

#### 10) 外洋総務委員会報告

大坪外洋安全委員長から資料に基づき、JSAF外洋系委員会・全国合同会議開催の案内があった。平成24年2月4～5日に宮城県松島で開催するこの会議は今回で3回目となる。公平感のあるレース運営を目指して全国統一運用を主旨としているとの発言があった。

児玉常務理事から、JSAF外洋艇登録艇について報告があった。外洋艇登録艇数は昨年度約650艇までに減少したが、本年度現在で725艇と増加した。理由は、加盟団体（県連）や特別加盟団体（クラブ等）からの登録があったことと、国際VHF搭載の必要性からと予想できる。しかし、外洋加盟団体全体としてのメンバー数減少は否めないことから、平成24年度はメンバー増強策を考慮したいとの発言があった。

#### 11) 外洋計測委員会報告

児玉常務理事から資料に基づき、IRC登録申請推移について報告があった。平成23年度IRC証書発行数（11月末現在）は351艇であるとの発言があった。

中澤キールボート強化委員長から、キールボート強化委員会報告があった。ワンデザインキールボートパーク&キールボートスクールの開校、ユースセーラーの意識改革とディンギーレーサーへの普及、ジャパンカップを頂点とする日本一を決定するシリーズレースの再構築、アメリカズカップ、ボルボオーシャンなどの世界のメジャーレースの研究と参加準備の4つの実行案に基づき小委員会を設立した。その中の1つ、関東水域（相模湾）の競合するレースを纏められないか検討している。相模湾サーキット計画案を本年12月7日に公表する。また、来年3月に学生マッチレースを開催するにあたり、委員会として全面的な協力とスポンサー獲得に協力するとの発言があった。

#### 12) 中間監査報告

斎藤理事から資料に基づき、連盟中間監査について報告があった。

平成23年10月21日、野口公認会計士による連盟中間会計監査が実施された。また、平成22年日本財団監査が平成23年9月14日に行われた旨、発言があった。

#### 13) 平成24年度事業計画及び予算依頼について

斎藤理事から資料に基づき、平成24年度事業計画及び予算の提出について依頼があった。予算書フォームは、公益財団移行を前提とした科目にした。提出期限を平成23年12

月 22 日として各委員会委員長あてに依頼する。また、平成 23 年度補正予算が必要な委員会は同時に提出していただきたいとの発言があった。

**14) 平成 23 年度 10 月末予算管理月報について**

斉藤理事から資料に基づき、平成 23 年度 10 月末予算管理月報について報告があった。

**15) 平成 23 年度 10 月 31 日付メンバー登録数について**

前田専務理事から資料に基づき、平成 23 年度メンバー登録数について報告があった。総合計 9,453 名との発言があった。

**16) 平成 23 年度臨時第 2 回理事会議事録（案）**

前田専務理事から資料に基づき、平成 23 年度臨時第 2 回理事会議事録（案）について報告があった。

**17) 平成 23 年度臨時評議員会議事録（案）**

前田専務理事から資料に基づき、平成 23 年度臨時評議員会議事録（案）について報告があった。

**18) 指導者委員会報告**

小山指導者委員長から資料に基づき、指導者委員会報告があった。

平成 25 年から国体監督資格として公認指導者資格が必須となることで、平成 24 年度も「公認指導員」養成講習会を開催する。平成 23 年度日本体育協会公認指導者表彰で、昇隆夫氏ならびに森信和氏が受賞された。引き続き、公認指導者表彰者を募集する。また、指導者講師研修会をジュニアユース育成事業と共同開催を考慮しているとの発言があった。

**19) 普及委員会報告**

斉藤普及委員長から資料に基づき、普及委員会報告があった。

日本財団から助成事業について、効果と今後の方針について指導されている。普及委員会は、優れた生涯スポーツであるセーリングスポーツの楽しさを、全国の方へ、特に次世代を担う若者たちへ伝承することで活動の方向性を示していきたい。平成 24 年度の取り組みは、セーリング拠点の整備、活性化を図り、セーリングスポーツの普及につなげることを目的とするとの発言があった。

<その他>

前田専務理事から資料に基づき、2020年オリンピック・パラリンピック招致関係スケジュールについて報告があった。

小山理事から資料に基づき、若洲夢の島オリンピックウィーク(案)を平成24年5月3~6日に開催するとの案内があった。全国のジュニアヨットクラブならび海外のジュニアセーラーを招聘して、2020年オリンピック・パラリンピック招致活動のアプローチをする。420艇体験乗船も行うとの発言があった。

松原事業開発委員長から資料に基づき、2012年度版JSAFカレンダー販売について報告があった。

児玉常務理事から、JSAFサーバー管理及びメールセキュリティ設定等の構築をしている。現在のJSAFネットワーク環境は極めて危険な状態であることから、再度設定変更の依頼をするとの報告があった。

前田専務理事から、所轄官庁の冬季の省エネ(電力節減)及び新公益法人の女性参画に関する要請について報告があった。

前田専務理事から、秋の叙勲で東京都連副会長の藤沢誠一氏が旭日双光章を受章された。平成24年2月25日にお祝いの会が予定されているとの報告があった。

前田専務理事から、JYAで長年理事として活躍された戸田孝昭氏が11月13日ご逝去された旨、報告があった。

前田専務理事から、次回理事会は平成24年1月21日開催する。引き続き、新年会を帝国ホテルで開催するとの案内があった。

平成23年度臨時(第3回)理事会は、上記の通り議決ならびに承認されたことを確認し、議事録署名人は以下に記名捺印する。

平成23年 11月 19日

議 長 会 長 河 野 博 文

議事録署名人 理 事 中 澤 信 夫

議事録署名人 理 事 坂 谷 定 生